

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開設時と比べと重度の入居者が増加したり、制度改定等もありグループホームの考え方も進化しているため、理念の見直しを行ったのだが、その理念がケアに反映しているかということ、まだ不十分と感じている。	勉強会をはじめとする事業所内研修により、一つ一つの理念に沿った業務内容を話し合う。理念に沿った年間の目標を次年度の事業計画に載せる。	事業計画では、常に理念に沿った目標を出せるように検討する。職員が理念を日々意識できるような環境づくりを行う。	12ヶ月
2	10	以前は入居者の家の畑で芋堀りをさせてもらったりと、家族との関係が密だったが、最近は家族との関係に距離ができたと感じている。	家族が忙しい等の仕方ない面もあるが、事業所の努力不足かもしれない。様々な角度から検証し、少しでも入居者と家族の関係が遠ざからないように配慮する。	意見箱以外でも、家族が意見を出しやすいような環境を検討する。請求書の封筒に入居者の笑顔の写真を添える等の工夫をする。	12ヶ月
3	26	特定の職員の前だけは自立した行動に努める入居者がいるが、その理由が分かれば全職員でもっと良いケアができる。良いアイデアがないか模索している。	個々の職員が知る入居者の行動を分析し、チームケアに生かしたい。そのために分析力を向上させる必要がある。	「気づきカード」を作りそれを集約することで、個々のケアの方法を確立する作業に取り組んでいる。	12ヶ月
4	2	運営推進会議を行うようになって地域との交流はできるようになったが、日常生活の中で地域住民とのもっと気軽な付き合いができればと思う。	地域の方に日頃から気さくに訪ねてもらえたり、こちらからも外出できるような雰囲気づくりに取り組む。	昨年から入居者の話相手のボランティアを募集しているが、今後も継続していく。また、育児休暇の職員がいた上に、重度の入居者のケアも増えて地域交流に力を入れる余裕がなかったため、職員体制も見直したい。	12ヶ月
5	49	入居者の重度化により、外出支援が以前より少なくなった。しかし、外の空気を吸うというのは、我々の生活の中で当たり前のことであり、室内の暮らしだけでは家庭環境の充実とはいえない。	あまり遠方まで行くことを考えずに、気軽に事業所の周りを散歩するような日課を作る。	事業所内の敷地が広いため、敷地内を歩いてもらうことから外出の機会を増やすよう努める。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。